

令和2年度次世代につなぐ営農体系確立支援事業  
 (産地の戦略づくり支援) 取組概要 (令和3年1月6日時点版) 計56地区

区分	取組主体	品目	主な取組内容	
北海道	壮瞥町農業ICT活用推進協議会	水稻、トマト (施設) (複合経営)	家族経営体が主体である中、 <b>農家戸数の減少に伴い一戸あたりの経営耕地面積が拡大傾向</b> にあり、労働負担の増大が課題となっていることから、ドローンセンシングや環境モニタリングシステムの活用により <b>作業の効率化と収量・品質の向上</b> を図る営農体系を検証	
	南渡島地区営農対策協議会	ニラ (施設)	農業者の高齢化や労働力不足に加え、 <b>温暖化に伴う気象変動が激しく、栽培管理が困難化</b> していることから、環境モニタリングシステムの活用によって <b>データに基づく管理で安定生産</b> を図る営農体系を検証	
	美唄市ICT農業推進協議会	水稻	農家戸数の減少により <b>一戸あたりの平均経営耕地面積が拡大</b> する中、農地基盤整備によりほ場を大区画化して農作業の省力化・効率化を進める一方で、 <b>適切な栽培管理が困難化</b> していることから、無人ヘリとドローンを用い、 <b>防除作業の省力化・効率化</b> を図る営農体系を検証	
	蘭越町ICT活用推進協議会	小麦、大豆	小さな農地が多い中、農家戸数の減少により <b>一戸あたりの平均経営耕地面積が拡大</b> している上、 <b>生育のばらつきが常態化</b> していることから、ドローンセンシングを活用した生育状況に応じた施肥や収穫適期予測によって <b>収量や品質の高位平準化</b> を図る営農体系を検証	
	更別村ICT農業利活用協議会	馬鈴しょ	家族経営体が主体である中、担い手の高齢化・雇用労働力が不足している上、 <b>馬鈴しょは作業工程が多いため経営規模が限界</b> であることから、ロボットトラクター等を活用した省力化や、ドローンセンシング等を活用した <b>種芋ウイルス病株等の抜取作業の省力化及び種芋の高品質化</b> を図る営農体系を検証	
東北	秋田県	横手すいか省力化技術検討協議会	すいか	農業者の高齢化に伴い <b>重量野菜の生産が敬遠</b> され、生産面積が減少していることから、 <b>産地規模を維持</b> するため、特に重労働であるトンネル支柱の設置作業にトンネル支柱打込機とアシストスーツを活用することで、 <b>軽労化</b> を図る営農体系を検証
		北秋田スマート農業協議会	水稻	農地集積により規模拡大や省力化を進めている中、 <b>管理が不十分となり収量・品質が低下</b> していることから、水管理システムを活用した省力化やリモートセンシングによる <b>生育診断に基づく適期作業</b> によって <b>収量・品質の向上</b> を図る営農体系を検証
		鹿角ICT農業協議会	キュウリ (施設)	農業者の高齢化が進み産地規模の縮小が課題となっていることから、 <b>新規農業者数の確保</b> に向け、AI自動灌水・施肥システムを活用して、 <b>新規農業者においても収量・品質の安定した生産が可能</b> な営農体系を検証

関東	茨城県	鹿島南部地域ピーマン営農体系確立検討協議会	ピーマン	産地の強化に向け、作型を組み合わせた <b>周年出荷体系での安定した増収技術を確立する必要がある</b> ことから、環境測定データに基づく温湿度管理や炭酸ガス施用等の環境制御技術の導入によって、 <b>安定多収技術の確立</b> を可能とする営農体系を検証
	群馬県	邑楽館林営農体系確立推進協議会	キュウリ（施設）	家族経営による慣行的な栽培方法が主であるが、 <b>担い手の高齢化・労働力不足が深刻化</b> していることから、環境モニタリングシステムにより得られたデータを分析し、 <b>単収増加・産地維持</b> を図る営農体系を検証
		明和町次世代につなぐ先端技術導入推進協議会	梨	担い手不足に伴い労働量が増加していることから、担い手として定着しつつある <b>若手農業者とともに、新規就農者を確保し産地規模を維持</b> するため、ロボット草刈機やアシストスーツの活用による省力化、非破壊糖度計の活用による <b>品質統一・高収益化</b> を図る営農体系を検証
	千葉県	匝瑳市春海・椿海・豊和地区水稻技術協議会	水稻	地域の担い手が減少し、水稻の <b>経営体あたりの経営面積が増加傾向</b> にある中、 <b>適期作業が困難化</b> していることから、農業用ドローンを活用した防除・追肥によって <b>労力削減及び生産コスト低減</b> を図る営農体系を検証
		長南町農業推進協議会	水稻	畦畔除草等の管理作業における労力の不足や、 <b>気候変動や多品種栽培により適期管理が困難化</b> していることから、リモコン式草刈機やドローンによる防除など <b>省力化</b> を図る営農体系を検証
		白子町次世代施設園芸研究協議会	トマト	<b>養液栽培での生産者間の収量のバラツキが課題</b> であることから、環境モニタリング装置から得られるデータの分析・活用と産地でのデータ共有及び篤農家の栽培管理技術を「見える化」することで、 <b>収量・品質の向上を図り、安定した所得の確保</b> が可能な営農体系を検証
	山梨県	やまなし果樹地域スマート農業推進協議会	果樹	果樹栽培は特定の時期に管理作業が集中する上、長年の経験による高度な栽培技術が必要であり、 <b>担い手の減少に伴い、産地維持や技術伝承が困難</b> になっていることから、農業散布用ドローン等の活用や技術の「見える化」によって <b>省力化及び品質向上</b> を図る営農体系を検証
	静岡県	JA富士宮スマート農業推進協議会	キャベツ	機械化体系に向かないほ場形状かつ小規模・分散のため、茶との <b>複合経営を行う上で作業の効率化が課題</b> となっていることから、全自動定植機・収穫機等の <b>効率化技術</b> の活用や、生育環境データ等に基づく <b>高品質栽培技術の実践</b> により <b>産地規模の拡大</b> を図る営農体系を検証
		JA静岡市スマート農業推進協議会	イチゴ（施設）	農業者の高齢化が進み、 <b>産地規模の縮小が課題</b> となっていることから、環境制御装置等を活用したデータに基づく温室管理・養液管理の実践や、農作業記録ツールを活用した作業手順の改善等により、 <b>産地維持と効率化・高品質化</b> を図る営農体系を検証
	北陸	新潟県	新発田地域スマート農業推進協議会	水稻
富山県		みな穂ういずOneの会高温対策協議会	ミニトマト（施設）	春に定植して年末に栽培を終了する「夏越し栽培」において、 <b>夏季高温期の樹勢低下に伴う収量低下</b> が課題となっていることから、施設環境モニタリング技術や、多段階加湿制御機能付きの細霧ミストの活用により <b>安定多収技術の確立</b> を図る営農体系を検証
		施設園芸生産性向上対策協議会	トマト、イチゴ（施設）	<b>近年の異常気象により、収量・品質が低下・不安定化</b> していることから、施設環境モニタリング・制御システムを活用して <b>篤農家の栽培管理技術を「見える化」し、新規就農者を含めた地域の農業者が実践</b> することで、安定した収量・品質の確保を図る営農体系を検証
福井県		福井県スマート農業推進協議会	大麦、大豆	高齢化に伴い労働力が不足している中、平坦地域では <b>農地集積に伴うほ場管理の困難化</b> 、中山間地域では <b>生産性の低下</b> が課題となっていることから、農作業管理支援システムやリモコン式草刈機等の活用により <b>省力化・効率化・生産性向上</b> を図る営農体系を検証

東海	岐阜県	いちご栽培学習支援システム設計協議会	いちご（施設）	イチゴの生産にはきめ細かな栽培管理等が必要であり、 <b>新規就農者や雇用労働者は技術の早期習得が難しい</b> ことから、ウェアラブルカメラ等を用いて熟練者の作業のポイントを見える化することにより、 <b>栽培技術や作業能力の向上</b> を図る営農体系を検証
		海津CAFスマート農業検討会	大豆	産地では <b>収量の向上・安定生産が課題</b> となっていることから、自動操舵トラクターを活用した <b>適期期間での効率的な作業</b> の実施やドローンを活用した <b>病害虫防除の実施</b> により、安定した収量の確保を図る営農体系を検証
		串原地区スマート農業推進協議会	水稻	労働力不足や高齢化が著しく、また <b>傾斜地が多く農地の維持が困難</b> となっていることから、リモコン式草刈機や農薬散布用ドローンの活用により、 <b>省力化や軽労化</b> を図る営農体系を検証
		海津神桐宮農スマート農業検討会	水稻	ほ場の土性が異なり、 <b>一律の施肥量では収量・品質にばらつきを生じている</b> ことから、可変施肥田植機を活用し、 <b>ほ場の土性に合った施肥</b> を行うことにより、収量・品質の向上等を図る営農体系を検証
	愛知県	スマート農業協議会	果樹	担い手が減少する中、 <b>担い手の高齢化に伴う労力負担や新規就農者の早期定着が課題</b> となっていることから、アシストスーツやロボット草刈機を活用して <b>作業の軽労化・省力化</b> を図るとともに、果樹園管理支援ツールによる <b>作業の「見える化」</b> で <b>技術の早期定着</b> を図る営農体系を検証
		小牧市スマート農業推進研究会	果樹	高齢生産者や大規模化した若手生産者において、 <b>生育期における労働負担が大きい</b> ことが課題となっていることから、収穫・除草等の作業が可能な自律多機能ロボットの活用等により <b>省力化</b> を図る営農体系を検証
		田原市オオバ活性化協議会	大葉（施設）	需要期に合わせた作付けを行っている中、 <b>生育管理の明確な指標がなく、需要期以外での安定出荷に課題がある</b> ことから、環境モニタリングシステム活用により栽培管理モデルを策定し、 <b>年間生産量の増加と省力化</b> を図る営農体系を検証
		美浜キュウリ技術改善協議会	キュウリ（施設）	地下部環境の管理は経験や勘に基づいたものであり、 <b>管理改善への取組に課題</b> があることから、日射量・土壌水分等のモニタリング機器を活用したデータ分析を通じて、 <b>新規就農者が就農直後でも収量増加・安定生産が可能な</b> 営農体系を検証
	三重県	伊賀米振興協議会	水稻	中山間地域の高品質米産地において、 <b>生産技術の継承や作業の省力化、生産コストの低減などが課題</b> となっていることから、水位センサーやドローンセンシング等の活用、栽培管理に有用な情報の迅速な発信により、 <b>地域の担い手がデータを基に省力的かつ効率的に高品質米を生産</b> できる営農体系を検証
		梨産地スマート農業実証協議会	梨	収益力向上や規模拡大に向けて、 <b>作業の記録や受発注に係る労力の軽減および生産技術の向上が課題</b> となっていることから、ICTにより生産者と実需を結ぶ仕組みの検討と生産管理システムの活用による <b>生産技術の高位平準化</b> を図る営農体系を検証
		伊勢茶スマート栽培推進協議会	茶	<b>価格の低迷</b> に対応した生産コストの低減および <b>大規模化に伴う適期作業の遅れや干ばつ</b> 等に対応できる生産技術の確立が課題となっていることから、経営管理システムや適期作業に向けたIoT機器を利用したセンシングの活用等による <b>作業の効率化および品質・収量の向上</b> を図る営農体系を検証
		伊勢の青ねぎスマート栽培推進協議会	青ねぎ	新規就農者や作付エリアが拡大する中、 <b>新規就農者の技術不足や異常気象により市場の安定出荷ニーズに対応することが困難</b> となっていることから、営農管理システムや簡易気象観測センサーを活用した <b>データに基づく栽培管理・出荷予測</b> により、安定出荷を図る営農体系を検証

近畿	滋賀県	八日市胡瓜環境制御研究会	キュウリ（施設）	近年、 <b>新規就農者が増加し、農業者間の収量・品質のばらつきが拡大</b> していることから、環境モニタリングシステムの活用により <b>最適な栽培管理</b> を検討し、産地全体で高収量・高秀品率を図る営農体系を検証
		近江次世代施設園芸研究会	トマト（施設）	<b>農業者間で冬季の収量のばらつきが大きく、実需者が求める安定出荷に応える</b> ため、環境モニタリングシステムの活用によりデータを活用した栽培技術体系を確立し、 <b>産地全体の栽培管理技術の向上</b> を図る営農体系を検証
	京都府	勸修寺ブドウICT研究会	ブドウ（施設）	近年、 <b>高温障害による収量の減少や品質低下が課題</b> となっていることから、環境モニタリングシステムの活用により <b>高温障害を回避するための栽培管理体系を検証</b> し、収量や品質の向上を図る営農体系を検証
		丹後果樹産地振興協議会	梨	<b>農業者の減少・高齢化が進み、的確な樹形への剪定が行えず、収量低下が課題</b> となっていることから、ドローンを活用して上空から樹形を撮影し、剪定指標を作成することで、 <b>的確な樹形管理と収量向上</b> を図る営農体系を検証
	大阪府	大阪府スマート農業推進協議会	水なす	1生産者あたりの農地が小面積かつ点在し、 <b>ハウス管理の作業負担が大きく、生産者間の収量・秀品率のバラツキが課題</b> となっていることから、環境制御システムの導入により、 <b>省力化及び収量・品質の高位平準化</b> を図る営農体系を検証
	兵庫県	殿畑スマート農業実証協議会	水稻・黒大豆	高齢化が進む産地の維持発展に向けて、 <b>新たなオペレーターの育成</b> に取り組む中、経験の少ないオペレーターでも精度の高い作業ができるように、直進操舵機能付きのトラクターや田植機等の活用により <b>作業精度の向上や省力化</b> を図る営農体系を検証
		加東市スマート農業	酒造好適米	農業者の減少に伴い、少人数で多くのほ場を管理している中、 <b>良質な酒米の栽培には適正な水管理が不可欠</b> であることから、水位センサーの活用による水管理により、 <b>作業時間や人件費の削減</b> を図る営農体系を検証
	奈良県	五條市集落営農スマート 農業推進協議会	水稻	<b>全域が中間農業地域</b> で高齢化等による担い手不足が深刻化しており、 <b>農地管理が困難</b> になっていることから、ドローンを活用した直播・除草・防除や水位センサーの活用により、 <b>省力化・軽労化</b> を図る営農体系を検証
		奈良地区イチゴスマート農業推進協議会	イチゴ（施設）	近年、 <b>若手農業者や新規就農者を中心に、農業者間での収量・品質のばらつきが課題</b> となっていることから、環境モニタリングシステムの活用により作業の「見える化」に取り組み、 <b>品質・収量の高位平準化、農業経営力の向上</b> を図る営農体系を検証
	和歌山県	和海地方スマート農業推進協議会	水稻	高齢化や担い手不足が進行している中、 <b>水稻での防除作業が重労働</b> となっていることから、農業用ドローンを活用した防除により、 <b>管理作業の省力化</b> を図る営農体系を検証

中国四国	島根県	斐川施設野菜スマート農業実証協議会	ミニトマト（施設）	越冬栽培におけるハウス密閉・加温とCO <sub>2</sub> 濃度管理の両立が難しく、単収低下が課題となっていることから、環境モニタリングシステムや炭酸ガス局所施用法によるハウス内環境の改善で、単収向上を図る営農体系を検証
	広島県	大朝地域担い手ネットワーク協議会	水稲	高齢化等に伴い担い手への農地集積が進む中、小規模かつ畦畔率が高いほ場が多く、畦畔管理が規模拡大を阻害していることから、リモコン式草刈機、ほ場管理システムの活用により、軽労化とともに効率的な機械共同利用を図る営農体系を検証
	愛媛県	久万高原町スマート農業研究会	水稲	中山間地域かつ小規模経営の農業者が多い本地域では、担い手の減少に伴い産地維持が困難化していることから、ドローン等を活用した防除により省力化を図られる営農体系を検証
	高知県	本山町スマート農業推進協議会	米ナス、カラピーマン、シトウ（施設）	効率的で安定した苗の生産供給と育苗作業の後継者育成が課題であることから、環境モニタリング・制御システムの活用により「匠の技」を「見える化」するとともに、育苗作業の効率化、データ蓄積による育苗管理技術の向上を図る営農体系を検証
九州	福岡県	朝倉地域担い手・産地育成支援協議会（担い手部会）	水稲	担い手の減少に伴い、1農家あたりの経営耕地面積が増加傾向にある中、適切な水管理や病害虫の発生状況に合わせた防除が困難化していることから、水管理システムや農薬散布用ドローンの活用により、省力化・軽労化を図る営農体系を検証
	長崎県	五島市スマート農業推進協議会	水稲	離島に位置し、担い手不足による栽培面積の減少が顕著で、産地維持が困難化していることから、農薬散布用ドローンやリモコン式草刈機、水管理システムの活用により管理作業の省力化を図る営農体系を検証
		佐々町スマート農業推進協議会	水稲	中山間地が多く担い手不足が進行する中、適期防除や畦畔除草の労力負担やオペレーターの育成が急務であることから、農薬散布用ドローンやリモコン式草刈機の活用による管理作業の省力化や、スマート田植機の活用による人材育成・確保を図る営農体系を検証
	大分県	日田市スマート農業推進協議会	西瓜、白菜	収穫物の積み下ろしや中腰作業の労力負担が大きく、担い手の高齢化が進む中で産地規模縮小が課題となっていることから、アシストスーツの活用により、軽労化や栽培面積の拡大を図る営農体系を検証
		佐伯市柑橘栽培管理スマート化協議会	柑橘	近年、異常気象が多発する中、適期防除やかん水量の調整等の判断が困難化していることから、ほ場環境モニタリングシステムの活用により見回り時間の短縮やデータに基づく栽培管理を行い、効率化を図る営農体系を検証
	宮崎県	日南地区施設果樹環境制御普及推進協議会	マンゴー	マンゴー産地の確立に取り組む中、農業者による品質のばらつきが課題となっていることから、環境モニタリングシステムや細霧冷房装置の活用により、測定データに基づきハウス内環境を最適に保ち、収量・品質の向上を図る営農体系を検証
	鹿児島県	東串良町キュウリ環境制御研究会	キュウリ（施設）	更なる産地規模拡大に向けて取り組む中、地域の気象条件に適した栽培技術の確立が課題となっていることから、環境制御システムの活用により、安定した高単収生産を図る営農体系を検証
出水地域ミニトマト環境制御研究会		ミニトマト（施設）	ミニトマトの単価が下落傾向にある中、産地を維持・発展するためには単収向上が不可欠であることから、環境制御システムの活用により、安定した高単収生産を図る営農体系を検証	
沖縄県	久米島さとうきび振興協議会	さとうきび	圃場が平地から山手まで点在している中、農業者の減少・高齢化が進み、作業時間の約3割を占める収穫作業の負担増が課題となっていることから、GPS装置を搭載したハーベスターを活用して収穫作業の実態を可視化・定量化するとともに、収穫作業の効率化と省力化を図る営農体系を検証	